

令和 5 年度 学校関係者評価実施用紙

学校番号	10	学 校 名	田方農業高等学校	記 載 者	佐田 恵子
------	----	-------	----------	-------	-------

評価	基 準	評価	基 準
A	十分目標を達成することができた	C	あまり目標を達成することができなかった
B	おおむね目標を達成することができた	D	ほとんど目標を達成することができなかった

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
ア	農業高校で学ぶ知識と技術をしっかりと体験し身に着ける。 （基礎学力の定着。実験・実習を大切にする。）	○常に授業を大切にし、準備をして臨むことができた生徒 80%以上。 ○基礎学力が定着した生徒 70%以上。 ○毎日の学習活動で I C Tを活用した生徒 80%以上。	B	B	・授業準備等、生徒自ら学習環境を整える取組は、学習への姿勢や集中力等にも影響すると思われるので、今後もぜひ御指導願いたい。 ・毎日の学習に対して、どれだけ生徒が満足しているかが重要。 ・成果目標に対する達成状況は、生徒等へのアンケートを使用しているが、できるだけ客観的に図る指標（アウトカム指標）にした方がよいと思う。 ・テスト結果など、学力を示す指標が不足しており、基礎学力の定着については判断しきれない。生徒と保護者の評価に乖離があったのも、授業を大切にすることと知識の定着とで、着目点に相違があったのかもしれない。 ・教員、生徒共授業に対する取組がとても良い。 ・I C Tを活用した個別最適な学びを目指す中で、授業での活用と共に、基礎学力の定着に向けたA I ドリル等を活用した、家庭学習の取組等を期待したい。 ・イ、ウの目標に向け、更に ICTの活用の幅を広げ、将来に向け力をつけさせたい。

イ	自ら考えて、自他のために行動する力を身に付ける。	○実験実習等で挨拶や感謝の言える生徒 80%以上。 ○自発的・積極的に授業や家庭学習に取り組む生徒 70%以上。 ○自分の意見や考えを持ち、他者の意見を認める生徒 70%以上。 ○朝読書を有効に活用できたとする生徒 60%以上。 ○整理整頓を意識し清掃が行える生徒 90%以上。	A	A	・生徒の達成状況が高く、自ら考え行動する主体性の育成に向けた指導の成果が表れている。 ・実習を通じて積極的な意見交換や協働することは、社会に出てからも役立つと感じた。 ・来校時の生徒からの挨拶は気持ちが良い。また、生徒が学校に誇りを持っている。今後も生徒の思いを大切にしたい指導を願う。 ・家庭学習に対する主体性に特に課題が見られるようである。基礎学力の定着も含め、授業と家庭学習をつなげていく課題設定等の取組が、期待される。(中学校においても、家庭学習の習慣化は課題となっている。) ・自ら他者のために考えて行動することは、実習や意見交換を行う場を通して身に付いていることが確認できた。対して、自身のための家庭学習や提出課題、整理整頓への取組姿勢が希薄であると感じた。これらを自分ごととして捉えることができると成果が変わってくると思う。 ・生徒の自立心を向上させる取組の成果が達成率に表れている。 ・取組の弱い生徒やおとなしい生徒をどう支援したらよいかを成果目標に入れてはどうか。 ・達成状況はいずれも 80%以上になっているので、来年度は成果目標の見直しが適当と思われる。
ウ	将来の生き方・暮らし方・働き方を考える。(キャリア教育と進路指導の充実)	○進路意識が高まった生徒 80%以上。 ○進路指導が十分行われていると感じる生徒 90%以上、保護者 80%以上。	A	A	・達成状況に教員の取組の成果が出ている。今後も生徒自身が自分の良さに気づき、適切な進路選択ができるようお願いしたい。 ・農業や関連産業に関する知識の習得は将来的に重要なので、更なる充実をお願いしたい。 ・計画的、組織的、熱心な指導が素晴らしく、成果も上がっている。

様式第5号

					・個々の探究も深めたい。 ・担当教員のきめ細やかな指導に頭が下がる。限られた時間の中での指導となるが、引き続きお願いしたい。 ・3年間で体系的に職業や進路について学べていると感じた。 ・1年次より進路について考える機会を設けており、生徒が目標を立てやすいと感じる。
エ	学校農業クラブ・生徒会・部活動によって自治を学ぶ。	○学校農業クラブ活動に積極的に関わった生徒70%以上。 ○学校行事等を積極的に行った生徒90%以上。 ○子供が部活動に満足していると感じる保護者85%以上。	B	B	・具体的な成果は上がっているので、学校農業クラブの活動の周知をしていただき、アンケート結果に反映させたい。 ・大きい大会でなくとも、校内での行事参加や協力に価値があることを意識づけることも必要だと思う。 ・検定、資格取得や全国大会等の成果は農業クラブ活動の学びの継続の成果であることを自覚させたい。 ・自治にも目を向けさせたい。 ・部活動においては、今後も中学校での取組に左右される状況はやむを得ないと思われる。しかし、その目的、成果はあるので、今後も状況を把握しながら、取り組んでいってほしい。 ・大会での好成績より、大部分の生徒は部活動に真剣に取り組んでいることが分かる。また、向上心のある生徒が多いと感じる。今後は、部活動に所属しない生徒がやりがいを見つけていくことが課題になると思われる。 ・クラブ活動や学校行事に携わることで、チームビルディングを学び、学校に対する愛着、誇りを持つことができた。
オ	伊豆田方分校等との「共生・共育」によって社会の多様性について学ぶ。	○共生・共育の交流活動5回以上。 ○講師招請を含めた地域連携活動1回以上。	A	A	・今後もこれまで同様に計画的な交流活動に期待する。 ・多様性について学ぶ機会が多く、この先の時代の変化にも対応できる意識を持つことができた。 ・同じ校舎内にあり、日常的に

					交流が生まれることが、多様性を学ぶことに繋がり、温かい校風になっていると思う。 ・自然体で共生・共育ができていることは素晴らしい。
カ	全ての生徒・教職員が安全で安心して学ぶことのできる場をみんなでつくる。	○特別支援教育や教育相談、通級指導の情報共有 10 回以上。 ○地域防災訓練に参加した生徒 50%以上。	B	B	・個性の多様化や家庭環境の複雑化が進み、フォローが大変な面もあるかと思うが、職員が生徒に向き合っている様子が伺え、よく目が行き届いているとの印象を受けた。 ・学校からの地域防災訓練の情報発信と日頃の防災教育が重要と感じる。義務においても課題となっている。 ・地域の実情を見ていると、高齢化が進み、本当に活動できる人は限られている。若い高校生の積極的な参加を希望する。 ・安全・安心な環境を作る意識は高い。
キ	持続可能な社会をつくるために、保護者や地域社会と連携する	○時代に即した P T A 活動の実施。 ○ J A や地 元 農 家・企業との連携が促進。 ○熟議が学校運営に反映したと感じる委員 90%以上。	B	B	・教育の持続可能を考える中では、学校、家庭（PTA）地域、関係団体等が連携・協働して、社会の循環の中で子ども・若者を育成していくことは大前提である。今後も社会に開かれた田方農業高校の取組に期待している。 ・地元企業との産学連携を積極的に実施できる環境を増やし、本校ならではの取組を強化することで、強み、魅力としたい。 ・JA や地元農園、企業との連携はさらに進めてほしい。 ・農業高校という特色を活かし、地域と連携を図っていると感じた。企業として、工場見学、職業体験、PTA 見学と多方面で関わることができた。学校運営協議会も学校の在り方について考える機会となっている。 ・さらに多くの人に来校してもらう機会を作り、学校を知ってもらってはどうか。 ・先進的な農家ばかりでなく、地道に農地、地域を守っている人々の意見についても、学習に取り入れてもらえれば有難い。

様式第 5 号

ク	新しい時代の価値観に沿った働き方、専門職性を修得する。	○専門職性向上のための研修実施。 ○ワークライフバランスと生産性向上。 ○教職員の不祥事、体罰、交通事故 0 件。 ○監査、検査の注意 0 件。	B	B ・多様な研修を実施している。 ・研修の実施で、新しい知識を持って生徒に接することは、非常に素晴らしいと思う。 ・次世代を担う若者に求められている資質・能力の育成に向け、教職員の専門性向上に期待している。 ・義務に押し寄せている教員の働き方の見直しは、いずれ高校にも少なからず波及すると思われる。今後も教員自らが自身のワークライフバランスと専門性の向上に向けた意識改革をお願いしたい。 ・ワークライフバランスについては、部活動等を含めた変則的な勤務もあり課題は多いと感じるが、教職員間のコミュニケーションを図りながら取り組んでほしい。 ・忙しく仕事が多い中、ワークライフバランスの意識改革の推進は必要。心身共に健康で豊かな教師と学ぶ学校から心豊かな生徒は育つ。 ・教員の働き方改革は企業と異なり、仕事とプライベートの線引きが難しいところにあると思う。 ・教職員の不祥事、事故ゼロで終われることは、自己管理ができていると考える。
---	------------------------------------	---	---	--